

<p>文化・風習 07-01</p>	<p>親族のお葬式にてます。 服装、香典の準備や振る舞いがわかりません。</p>
<p>最近は、家族や親せきなど少人数で行われることがほとんどで、出る機会は少なくなっています。もし呼ばれた場合の参考にしてください。</p>	
<p>通夜式と 告別式</p>	<p>葬儀には通夜と告別式があります</p> <p>1 通夜 故人と親しかった人たちが別れを惜しむ儀式です どうしても告別式に参列できない場合は通夜に参列 しましょう。 通夜の時間は午後6時から7時くらいが一般的です</p> <p>2 告別式 故人に縁のある人たちが最後のお別れをする儀式です。 開式の時刻はさまざまですが、一般的には通夜の翌日に行われます。 1時間くらいで閉式します。</p> <p>3 参列を迷ったとき 親族の場合は親や身内に、会社関係の場合は上司や先輩に相談してください。</p> <p>4 会社への相談・報告 親族が亡くなった場合の参列は勤め先の上司に相談してください。 会社が冠婚葬祭参列を「特別な休暇」として用意していることがあります。 その場合は休暇で参列できます。</p> <p>5 告別式は遅刻厳禁です 告別式の遅刻はとても目立ちます。沢山の人が一時に集中するので 必ず時間前に到着して受付（記帳し香典を渡すこと）を済ませます。 (香典の金額は故人との関係やあなたの年齢・会社の立場によって変わります)</p>
<p>服装と 持ち物</p>	<p>1 服装 フォーマルで落ち着いた服装で参列します。 男女問わず、必ず葬祭用の衣類は用意して置いてください。 経済的に余裕があれば「寒いとき」用と「暑いとき」用の2セットを 用意してください。暑い時期に冬用の衣類はまさに地獄です。</p>

## 1) 男性用の喪服

慶弔両用に着られるブラックスーツ。白シャツ。黒無地のネクタイ。  
靴下も黒無地。

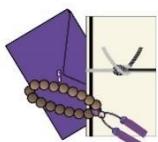
## 2) 女性用の喪服

黒のフォーマルスーツかワンピース。長袖が原則。  
スカートは膝下丈。黒い布のバッグ。



## 2 数珠

焼香時や拝礼のさいに用います。必ず準備してください。



## 3 ふくさ

靈前に供える香典をむき出しで渡すのは失礼に当たります。  
喪服、数珠と一緒に「ふくさ」も用意しておいてください。  
香典を「ふくさ」に包んで葬儀受付に出すと品があります

香典の  
金額

### 香典の金額

故人との関係やあなたの年齢や立場などによって変わります。  
地域や会社による約束事もあります。必ず相談してください。

香典袋



葬儀の時は、黑白の水引きを使います。  
表書きは、御靈前、御香典などと書きます。  
差出人氏名は、表下部にフルネームで書きます。  
住所、金額は裏に書きます。

アドバイス

おおあわ  
お葬式はいつも急 大慌て あたふた

文化・風習 07-02	就活のインターンシップに参加しました。電話では失礼なのでお礼の手紙を書きます。書き方がわかりません。
考え方の基本	<p>最近は電話やメールで用件を済ませることが多くなりました。</p> <p>でも、お礼やお詫び、挨拶やお知らせは手紙やはがきを送るのがマナーです。</p>
はがきと手紙	<p>1 <b>はがき</b> 略式 (年賀状、暑中見舞、季節の挨拶、転居のお知らせ等)      2 <b>手紙</b> 正式 (目上の人宛、改まったお願ひ、お詫び等)</p>
手紙書き方 マナーの ポイント	<p>1 <b>タイミングが大切です</b>      贈答品の送り状やお礼状、お祝い事や弔事のお知らせや返事など、手紙やハガキのやり取りで大事なのはタイミングです。時期を逃してしまうと、それ自体が失礼な行為となり、相手に気持ちが伝わりにくくなるかもしれません。</p> <p>2 <b>敬語を正しく使いましょう</b>      手紙では、相手に対して尊敬語を使い、自分には謙譲語を使います。</p> <p>1) <b>丁寧語</b> ものごとを丁寧に表現します      2) <b>尊敬語</b> 相手に対して敬意を表現します      3) <b>謙譲語</b> 自分や身内についてへりくだつて表現します</p>

## 手紙の見本



文化・風習 07-03	りっしゅん しゅうぶん 立春や秋分はわかりますが、他の季節をあらわす啓蟄 たいしょ とうじ や大暑・冬至などわかりません。教えてください。	けいちつ 立春や秋分はわかりますが、他の季節をあらわす啓蟄 たいしょ とうじ や大暑・冬至などわかりません。教えてください。
二十四節気 とはなし	せつき 二十四節気とは太陰暦を使用していた時代 (現代は太陽暦) に季節を表現する ために使いました。日常会話でよく使いますので、覚えておくと役に立ちます。	たいようれき 二十四節気とは太陰暦を使用していた時代 (現代は太陽暦) に季節を表現する ために使いました。日常会話でよく使いますので、覚えておくと役に立ちます。
春	立春 (りっしゅん) 2月 4日頃 雨水 (うすい) 2月 19日頃 啓蟄 (けいちつ) 3月 6日頃 春分 (しゅんぶん) 3月 21日頃 清明 (せいめい) 4月 5日頃 穀雨 (こくう) 4月 20日頃	この日から立夏までの日が春 雪から雨に変わる頃、春一番が吹く 冬眠していた虫が穴から出てくる頃 この日をはさんで前後1週間が彼岸 ひやつか 百花が咲き競う季節 田植えの準備が整い、柔かい雨が降る
夏	立夏 (りっか) 5月 6日頃 小満 (しょうまん) 5月 21日頃 芒種 (ぼうしゅ) 6月 6日頃 夏至 (げし) 6月 21日頃 小暑 (しょうしょ) 7月 7日頃 大暑 (たいしょ) 7月 23日頃	この日から立秋までの日が夏 ようき 陽気がよくなり 草木が生長するころ こくもつ 穀物の種まきをする頃 一年中で一番昼が長い時期 梅雨があけ、本格的な夏が始まる頃 夏の土用の時期
秋	立秋 (りっしゅう) 8月 7日頃 処暑 (しょしょ) 8月 23日頃 白露 (はくろ) 9月 8日頃 秋分 (しゅうぶん) 9月 23日頃 寒露 (かんろ) 10月 8日頃 霜降 (そうこう) 10月 23日頃	この日から立冬の前日までが秋 はぎ 萩の花が咲き、朝夕快い風が吹きます 秋の風情がひとしを感じられる頃 昼夜の長さがほぼ同じになる頃 秋もいよいよ本番 しも けしょう 山間部では霜が降りて化粧をする頃
冬	立冬 (りっとう) 11月 7日頃 小雪 (しょうせつ) 11月 22日頃 大雪 (たいせつ) 12月 7日頃 冬至 (とうじ) 12月 22日頃 小寒 (しょうかん) 1月 5日頃 大寒 (だいかん) 1月 20日頃 の厳しい日	この日から立春の前日までが冬 ひざ 陽射しが弱まり冷え込みが厳しくなる 山々は雪の衣をまとい冬の姿になる 一年中で夜が一番長い日 かん せつぶん 寒の入りで、節分までが「寒」 一年で一番寒さ

